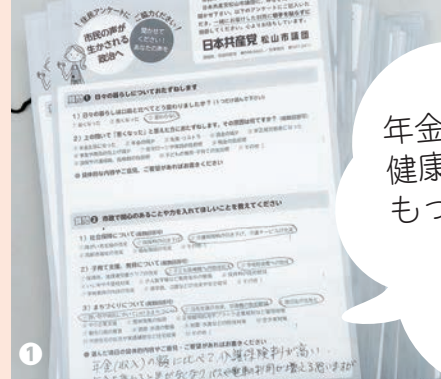


いのもり春枝は ほっとけない！

年金から引かれる介護保険と健康保険料が高すぎます。もっと暮らしよい松山市にして。

戦争に反対する政党に伸びてほしい。



日本共産党が取り組んだアンケートには、市民のみなさんの切実な声や、地域の要望がたくさん書き込まれていました。(写真①)。「何とかしなければ」と、いのもりさん。さっそく現地に足を運んで実情を聞いたり調査をしました(写真②③④)。

その結果をまとめ、日本共産党松山市議団と一緒に市に要請したところ(写真⑤)。

「日本共産党と一緒に暮らしの願いを実現しましょう」と街頭から呼びかけるいのもりさん(写真⑥)。あなたのご要望をお気軽にお寄せ下さい。



通学路の改善要望が出された余土中学校の前で



外環状線の工事、地域への影響を調査するいのもり春枝さん



通行者が転落の恐れがあると声がよせられた水路



市民の要望をもとに市に要請する、いのもりさん(中央)。左は小崎愛子市議、右は三宮禎子元市議

おもな要請項目

- 垣生地区に児童館をつくってください
- 通学路の総点検で万全の安全対策を
- 町内放送が聞こえない事のないよう改善を
- 放置された空き家対策にとりくんで

…など28項目を要請しました。

4人の子育て、母として

私の履歴書

女性として、労働者として

いのもり春枝



育児、介護休暇のない時期から

地域で児童クラブつくる運動も

高校卒業後、公務員に。労働組合運動では女性の地位向上をめざし、「お茶くみ」廃止から始めました。その後、育児休暇も介護休暇も制度化され、産休も産前産後6週間から8週間に「女性の地位は少し向上しましたが、世界的には後進国。様々な施策を提案したい」との抱負を胸に。

小学校に児童クラブがなかった時代。子育て仲間と一緒に「学童保育を作って」と運動しました。自宅を開放して子どもを預けあったりしたことも。子育てママの声を行政や政治に届ける運動に携わり、今では市内全小学校での児童クラブ実施、こどもの医療費無料化を拡充できました。



新日本婦人の会全国大会で愛媛の仲間と(後列左はし)

47年間、職場で培った豊富な経験をいかし市政の場でも活躍されることまちがいなし。頭が良く、いつも冷静沈着、ねばり強い人です。元同僚として期待します。

子育てしながら働き続け、「男女ともに人間らしく生き、働き続けられる社会を」とねばり強くがんばってきた猪森さんに期待します。



元職場の同僚
石丸 貞子さん



愛媛労連女性部副部長
烏谷 律子さん



いのもり春枝の原点

誰かの幸せを
自らの幸せに重ねる
生き方に憧れて

「自分の時間をさいて、政治や職場を良くしよう」とがんばっている日本共産党の先輩たちの姿がとても新鮮でした」と、いのもりさん。

入党のお誘いを受けたのは19歳の時。迷いはありませんでした。これが活動の原点です。

プロフィール

1949年、市内余戸町に生まれる(旧姓・今井)。1968年に松山商業高等学校卒業後、四国電波管理局(現在、四国総合通信局)に就職し、愛媛県国公女性協議会事務局長、愛媛労連女性部長、新日本婦人の会愛媛県本部委員、松山支部委員など歴任。この間、働く女性の中で、母親運動、母性保護、女性の地位向上にとりくむ。2014年3月退職、現在党中予地区委員。党松山市労働部長。余戸東在住。